

みまさか・まにわ 作州ワイド版

この紙面は読者のみなさんとともにつくりま

勝英支局 TEL(0868)72-0022 真庭支局 TEL(0867)44-2113
FAX(0868)72-8731 FAX(0867)44-2141
福渡支局 TEL(0867)22-0372
FAX(0867)22-0376

これからの安定経営のキーワードは、

セキスイハイム
40周年
記念モデル

Letoit

[レトア エフスリ]

発行)

水路に放たれたウナギを捕まえる子ども

般まで
ナム
して総
雄大な
詰まる

人工
ったコ
フレ



改修されたコートでプレーを楽しむ選手

ラリーを続けたり、鋭いスマッシュを披露するなど、新しいコートで汗だくになってボールを追った。

コート6面のうち、土の2面を人工芝に改修。4月に着工し、7月中旬に工事を終えた。防

風ネットなど事業費約1850万円は国の「ぎめ細やかな臨時交

19日からは全中

球を心掛けた」と抱負。2007年の全中は初戦敗退しており、副主将の植田直之捕手(3年)は「接戦の具大会で勝てて自信がついた。普段通りのプレーで先輩たちの借りを返せれば」と話している。

樹木への理解深めよう



家族が見守る中、丸太切りに挑戦する子ども

丸太切りやクイズ

勝央・関西育種場ふれあいイベント

樹木に親しむ「森林とのふれあい2010」が1日、樹木の品種改良などを手掛ける独立行政法人・林木育種センター関西育種場(勝央町植月中)で開かれ、家族連れがクイズや研究成果の展示見学などを楽しんだ。

樹木に理解を深め、環境問題にも興味を持つてもらおうと毎年実施。場内に設営した森の迷路」や樹木の特徴を当てるクイズ、散策しながら植物名を学ぶ「樹木博士」、のこぎりで切った丸太の重さ

巨大な球追い熱戦展開

キンボール大会 101チーム参加
真庭で



直径122センチの球を追ひ、熱戦を繰り広げる選手たち 7月31日

第11回キンボールスポーツジャパンオープン・フレンドリーカップ(日本キンボールスポーツ連盟主催)が7月31日と1日、真庭市下市瀬の白梅総合体育館で開かれ、全国から集まった計101チームが巨球を追ひ、コート狭しと駆け回った。

2日目は、チャンピオンの部混合A・同Bの試合があり、計25チームが熱戦を展開した。(岸俊行)

付金」を充てた。同公園では昨年9月から、地域活性化・経済危機対策臨時交付金などを利用し、野球場のバックスクリーンや大型遊具などを改修。テニスコートで一連の改修工事を終え

上位は次の皆さん。【男子】①岡勇太・岡敬太②白岩祐典・竹花源希③上原深一郎・浅野龍一【女子】①定森美穂・森淵里奈②久永菜月・久永亜衣③鷹取咲希・安藤愛実(近藤哲也)

3チーム(1チーム3人)でプレーし、直径122センチ、重さ1キログラムのボールをヒットやレシーブを繰り返して失敗したら他チームに得点が与えられるニュースポーツ。初日はフレンドリーの一部を実施。ジュニアA(小学5年生以上)、同B(同4年生以下)、一般A(中学生以上)、同B(同、16・17歳の参加不可)に計76チームが参戦し、予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦を実施。選手は、相手の動きを見極めながらボールをヒット。コールドされた色のチームはボールを落とすまいとコート内を駆け回り、スピード感あふれるゲームを繰り広げた。

を予想するコーナーなどがあつた。松枯れの原因となる病原菌・センチュウの観察コーナーでは、肉眼だと白濁しているようにしか見えない水が、顕微鏡を通すと細長い生き物がうようよと動くのが確認でき、子どもたちは「気持ち悪い」と驚いていた。

丸太切りに挑戦した津山市の勝加茂小学校5年田中博貴君(10)は「重さを予想するのはすごく難しい。もうつたセンチュウを家の顕微鏡で観察したい」と話した。(近藤哲也)

記録は後日掲載